



はぐくみ通信



☆日本赤十字社医療センターでは母乳育児を支援しています☆

母乳育児は、赤ちゃんとお母さんに良いことがいっぱいですが、NICU/GCUに入院している赤ちゃんとお母さんにとってもメリットがあります♪今回ははぐくみ通信では、NICU/GCUで母乳育児を行うことについてお話しします。

<NICU/GCUってどんなところ？>

NICU/GCUには35週より早く生まれた赤ちゃん、それ以上の週数で生まれても体重が小さい赤ちゃん、生まれつき病気を抱えた赤ちゃんたちが入院しています。そして、そのような赤ちゃんとお母さんが安心して自宅へ帰られるよう、新生児科医師、助産師、看護師、保育士など多職種が一緒に支援しています。

<NICU/GCUでの母乳育児の取り組み>

NICU/GCUに入院する赤ちゃんは産後すぐに離れ離れになってしまうため、赤ちゃんとお母さんが触れ合う機会をより多く持ってもらい、親子の絆を深めていけるようにホールディングやタッチング、カンガルーケアなどを行なっています。中でもカンガルーケアは、直接肌と肌とを触れ合わせることで母乳の分泌を促す効果があります。赤ちゃんの状態や病棟の状況により難しい場合もありますが、ベッドサイドで搾乳できるスペースも提供しています。赤ちゃんのことを考えながら、声を聞きながら搾乳をすることでホルモンの分泌が促されると言われています。退院間近の赤ちゃんには授乳練習を行い、授乳の手技の確認や乳房状態のチェックなど、色々とご相談をお受けしています。また、退院後ご自宅の環境の中でも安心して過ごせるよう、退院準備室で赤ちゃんに必要なケアを練習することもあります。

<NICU/GCUに入院中の赤ちゃんにとっての母乳とは？>

予定日より早く赤ちゃんを産んだお母さんの母乳は、正期産で産んだときの母乳とは成分が異なります。それぞれの赤ちゃんに合わせているかのように、「特別に粒子が細かく、消化しやすく、エネルギーが高い」といった、オーダーメイドの母乳が作られるのです。また、母乳に含まれる免疫物質は、小さな赤ちゃんを感染から守ってくれます。特に初乳は、赤ちゃんにとって大事な栄養がたくさん含まれているので、冷凍保存をしておき、赤ちゃんの状態に合わせて、初乳期間の母乳を必ず全て飲むように大切にしておきます。



※ 本写真は、ご家族のご了承を得て掲載しています。



NICU/GCU に入院しているお子さんをお持ちのお母さまの声 ～母乳育児についてお話をうかがいました～

★★Ｙちゃんのお母さんにインタビュー★★

Ｙちゃん 出生 27 週 600g 台 退院時 2260g (入院期間約 100 日間)

★母乳育児に関する事で良かったことや嬉しかったことは？

保育器での生活が長く、母乳も直接飲むことはすぐにはできなかつたけれど、母乳で栄養を摂っているということは嬉しかったです。出産当初、少し不安定になっていた気持ちの支えになりました。娘も頑張っているのだから、今の自分にできる「搾乳」をして母乳を届けるという目の前のことを目標にできて良かったと思います。

スタッフさんに小さく生まれた子には「その子のための母乳が出てくる」という事を聞いて嬉しかったです。今の自分に出来ることは、「搾乳をして飲んでもらうことだ！」といつも娘の事を考えながら搾乳しています。また、初乳には沢山の栄養があると聞いて初乳期間に冷凍ストックしようとかかわっていました。搾乳しはじめた頃は娘が近くにいてくれたら……と悲しい気持ちになることもありましたが、前向きな気持ちでいられるように娘の表情など思い出したり、写真を見ながら搾乳していました。

☆母乳育児で辛かったこと、難しかったことは？

産科の入院中にはスタッフさんが「(搾乳)頑張って」と声をかけて起こしてくれたけど、退院してからは自分次第なところがありました。眠いな……とか思うことはあっても、搾乳をやめたいと思ったことはなかったです。娘に飲んでもらいたいという、使命感みたいなものだったかもしれません。はじめての授乳練習の時、娘が大泣きしている姿に戸惑ってしまいました。でも、数 ml でも飲めたときは嬉しかったですね。

入院中のお母さんたちと搾乳の量について気になっちゃうよねと話したこともあります。

みんなそういう事を感じながら頑張っているんだなあ、と思ったりしました。



NICU/GCU では、お母さんと赤ちゃんに
寄り添いながら母乳育児を支援しています！
お気軽にご相談下さい☆